

別添第7号様式（第5号様式関係）

福島県市町村特定原子力施設地域振興事業補助金
（広域的減容化施設影響緩和事業分）
事業進捗状況書

1 事業者

住 所 川内村大字上川内字早渡11-24
事業者名 川内村
代表者の氏名 川内村長 遠藤雄幸

2 事業実施期間

着手 平成30年 6月15日
完了 令和元年 6月28日

3 事業概要

事業名	かわうちの湯源泉掘削事業
事業実施場所	福島県川内村大字上川内字小山平地内
事業内容	平成29年に行ったかわうちの湯源泉探査事業の結果をもとに、かわうちの村の代表的な観光施設である『かわうちの湯』の新たな源泉の掘削を行う。
事業を実施する理由 (課題・背景等)	川内村の代表的な観光施設である『かわうちの湯』の源泉の湯量が減少の一途を辿っていることから、新たな源泉を確保することで、かわうちの湯の継続と、地下資源の保護を行うことを目的とする。
事業の目標	令和元年6月28日までにかわうちの湯の新たな源泉を確保する。
事業実施により期待される効果 (直接効果及び中長期的効果)	現在の源泉より温度が高い源泉を探査、掘削することにより、燃料費が抑えられ、運営経費の削減が長期的になされる。 また、現在の源泉が枯渇する前に、新たな源泉に切り替えることで、貴重な地下資源を休ませ、保護することができる。

4 個別事業進捗状況

実施時期	実施内容・進捗状況	今後の展開
平成30年4月～ 令和元年6月	平成29年に行ったかわうちの湯源泉探査事業の結果をもとに、かわうちの村の代表的な観光施設である『かわうちの湯』の新たな源泉の掘削を行った。	新たな源泉を利用可能にすべく申請を行い、かわうちの湯の運営を継続する。

5 事業全体の進捗状況等

事業全体としての進捗状況	掘削深度2002m、湯量45L/分、湯温34℃の温泉源泉を確保するに至った。
事業実施による効果 (直接効果)	既存源泉より温度15℃以上高く、20L/分以上多い源泉が確保されたことにより、かわうちの湯のランニングコストの削減と安定的な運営が期待できる。
今後の展開	新たな源泉を利用可能にすべく申請を行い、かわうちの湯の運営を継続する。

注 用紙の大きさは、A列4番とする。